

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500055		
法人名	中部グループ株式会社		
事業所名	グループホーム どんぐりの里 もも		
所在地	愛知県弥富市森津4丁目14-4		
自己評価作成日	平成28年4月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397500055-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2397500055-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム内は、ユニットがフラットな構造になっている他、キッチンも対面式になっていることで、職員が利用者の介助を行いやすい設備が整えられている。日常生活の中で利用者がゆったりと過ごすことができるように、ホームの敷地が広く、庭には様々な木々が植えられており、利用者が季節を感じながら庭を散歩することができる環境が整えられている。地域の方との交流についても、近隣の幼稚園との交流の機会がつけられており、幼稚園の行事の際にはホームの駐車場を提供する協力が行われている。運営推進会議についても、毎回、複数の家族の出席が得られており、家族との定期的な情報交換の機会にもつながっている。なお、現状、ホームは1ユニットで運営が行われているが、今後の2ユニット目の開設を見据えながら、行事を通じた交流会の機会をつくる取り組みも行われている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年4月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員で理念を検討し、玄関に提示しているが日々のサービスの提供場面を振り返ると職員の意識づけはバラバラである。	理念については、ホーム開設時に職員間で検討しながら作成しており、「その人らしさ」を大切にしたい支援を目指した内容を掲げている。また、理念を玄関ホールに掲示しており、来訪者にも伝えるように取り組んでいる。	職員一人ひとりが理念を共有し、日々の支援への実践につながるように、個人目標を立てたり、定期的に振り返りの機会をつくる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会、自治体等には加入しており、行事には参加しており、また近所の幼稚園児が遊びに来たり近くの畑で採れた野菜のおすそ分けをしていただくなど交流が取れている。	ホームは地域の町内会の加入が実現しており、近隣の幼稚園との交流の機会が得られている。また、ホームでカフェ「どんぐりカフェ」の取り組みを行っており、地域の方との区流の機会につなげている。	開設より1年が経過したが、1ユニットが空いた状況である。地域の社会資源であるため、カフェやカラオケ等、ホームを知ってもらうための取り組みの継続に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域住民からの相談にのったり、介護の不安に関するアドバイスをするために認知症カフェなどを行った。地域の研修などへの参加はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	月一回のミーティング等で話し合いを行い、苦情・意見など繰り返さないよう協力関係を築いている。	会議を昨年8月より開催しており、毎回複数の家族の参加が得られていることで、家族との交流にもつながっている。また、市職員及び地域包括支援センター職員の出席が得られていることで、定期的に情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者にも運営推進会議に参加していただき、扱った事のないケースやわからない事は市担当者に連絡し協力関係を築いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会が毎月行われており、ホームからも職員が出席し、情報交換の機会につなげている。また、ホームでは生活保護の方の受け入れも行っており、担当職員との情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員等理解はしている。が現在玄関の施錠対応はしている。	ホームは身体拘束を掲げない方針を玄関ホールにも掲示しており、職員への周知を行っている。玄関については、利用者の状態もあり施錠しているが、今後、見直しに向けた検討を行っていくこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間でケアの方法についての話し合いは常に行っているが、一部不適切なケアと思われる時もある。対応方法について周知徹底していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等には参加していない。施設内で研修も行ってない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項を説明し了承を得たうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置し、運営推進会議等で入居者様の状況報告を行い意見・要望など聞く機会を設けている。	玄関に意見箱を設置し、意見や要望等の把握につなげている。法人代表者が日常的にホームに勤務していることで、意見、要望等に柔軟に対応できるように取り組んでいる。なお、家族を交えた交流会及びホーム便りの発行は行われていない。	今後、利用者が増えることを踏まえながら、ホームの行事に家族の参加を呼びかけていく等、交流会の機会をつくる取り組みに期待したい。また、ホーム便りの作成等、定期的な情報発信の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員間の連絡ノートの活用、またミーティングなどを行い情報を共有している。	ホームには、日常的に法人代表者とホーム管理者が勤務している体制でもあるため、現場職員からの意見や要望等については、随時対応するように取り組んでいる。また、会議を通じた情報交換にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の思いが代表者にはなかなか理解できていない。職場環境・条件の整備ができていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保・向上は理解できるが、育成を具体化する方針や姿勢は今は望めない。日常的に学んだ事など研修内容を報告する機会は作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月一回の市の調整会議に参加し、他事業者の方々と交流・意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談時に家族と本人に面談しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時に家族が困っていること不安または希望を伺い、それらの解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様の意向をしっかり把握し安心してサービスを受けることができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に暮らすという意識を持ち共に助け合うという気持ちで生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の気持ちとご本人の気持ちを聞きながらご家族様にできる事は協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様、知人、友人の面会時にはゆっくと過ごして頂くように心がけている。	利用者により、入居前からの友人、知人がホームに訪問したり、家族の支援も得て馴染みの美容院を継続している方もいる。また、家族の喫茶や食事に出かけたり、利用者により、自宅に戻り一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者同士の間に入り孤立しないように心がけている。一緒に行事に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りにより先日亡くなられた利用者様へのお別れ式や、ご家族への心のケアなど実践している。通夜・告別式の出席など。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の行動・言動・表情を観察しその中で思いや希望を把握するように努めている。	職員は、利用者の日常生活を通じた意向等の把握を行っており、把握した情報等は、職員間で共有できるようにミーティングや申し送りノート等につなげている。また、意向等の把握にセンター方式も活用しており、細かな把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族様より情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活状況・心身の状態を把握し記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ会議や申し送り等で出た意見を検討し現状にあったケアができるようにしている。	介護計画については、計画作成担当者が交代したこともあり、必要な様式等の検討を行っている段階である。計画作成担当者は常勤職員でもあるため、日常的な利用者に関する把握等も行われている。	現状、モニタリングの実施が充分に行われていない。計画作成担当者が交代したこともあるため、様式等の見直しに合わせ、モニタリングの実施にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせその時の状況に合ったケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し民生委員や町内会等の方々と交流を持つようしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医に情報を提供し連携を図っている。	協力医による利用者に合わせた訪問診療が行われているが、利用者、家族の意向により今までのかかりつけ医を継続している方もいる。また、毎週の訪問看護も行われており、利用者の健康チェックや協力医との連携等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常的に情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中、スタッフ・管理者が訪問し退院を含め今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人様にとって一番良い方法について、ご家族と話し合っている。主治医と連携を取っている。	ホームとしては、利用者の看取りに向けた取り組みも考えており、開設1年目であるが、ホームでの利用者の看取り支援が行われている。利用者の段階に合わせて家族との話し合いを深め、協力医と連携した支援が行われている。	職員への研修、指導等への取り組みについては、開設初年度でもあり充分に行うことができなかつたと考えている。ホームでの経験も活かしながら、今後の取り組みにつながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルが作成されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っていない。	開設初年度については、避難訓練を実施することができなかつたため、今後のテーマでもある。また、ホームの近隣に民家がないため、地域の方との協力関係についても、今後のテーマである。	地域の方との協力関係については、ホームで支援可能な取り組みも検討しながら、相互の協力につながるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	話し方・対応には十分に配慮している。	職員による利用者への言葉遣い等に関しては、管理者より注意を促すように取り組んでいる。また、日常的な注意喚起や職員ミーティングの中で、利用者への配慮について確認することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛け・傾聴により本人の思い、気持ちを知るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースに合わせた生活をして頂くように声掛けをし気持ちの把握に努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様対応で馴染みの美容院へ入っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備を利用者が一緒にすることはあまりできないが下膳についてはできるだけできる方は自分でして頂いている。	食材業者のメニューに基づき調理を行っているが、利用者に確認してメニューを変更することもある。利用者も片付け等に参加している。また、季節等に合わせた食事の提供や重度の方に合わせたミキサー食の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士のたてた献立で提供している。水分量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせて声掛け・見守り・介助を行っている。義歯の定期的な洗浄等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。トイレ案内・声掛けを行い失敗の回数を減らすように努めている。	利用者毎に排泄記録とチェック表にも記録を行うことで、職員間の情報の共有につなげている。排泄間隔をチェック表に残すことで、医療面での連携につなげており、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多く摂って頂ける機会を作り水分量を確保している。毎定期的に運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	本人の体調や希望により変更したり入浴拒否の場合は無理強いせず時間をずらして声掛けを行っている。	週2～3回の入浴となっているが、利用者の希望にも合わせた入浴を実施しており、利用者の中には毎日の入浴を楽しんでいる方もいる。また、入浴の際には入浴剤を使用している他、季節の入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容は職員が把握し、いつでも確認ができるようファイルに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩・行事等に参加することで気分転換になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出掛けたい時には、なかなか出られない状況です。天気の良い日などは近隣に散歩に出かけたりすることはできる。	利用者により毎日の散歩を日課としており、ホーム周辺を職員と一緒に散歩している。その際に、近隣の幼稚園に出かけ、交流の機会につなげている。また、喫茶外出を行っており、利用者の楽しみをつくっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族様より預かり金として保管している方、ご本人様がお金の管理をしていただける方がそれぞれある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の帰りたいの訴え続き状態によって家族様と相談をし電話対応をお願いして支援している方、ご本人が携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂ける様に壁面かざりを掲示している。	ホーム内はゆったりとした空間を確保しており、リビングのテーブルの他にもソファが配置されてあることで、利用者の好みの場所で過ごしている。また、リビングの壁には飾り付けも行い、雰囲気づくりにつなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の畳に座り読書を楽しまれたりできる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の慣れ親しんだ品や家族との写真などで心穏やかに過ごすように配慮している。	居室については、好みの物を持ち込んでいる方がいる一方で、シンプルな雰囲気の方もおり、利用者に合わせて居室づくりが行われている。また、居室内には収納スペースが設置されてあることで、車椅子の方もゆったりと過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所に手すりの設置している。全面バリアフリーになっている。		